

申 志 報



われら母校 2010年 100周年を迎える



在校生代表・多くの同窓生・PTA会員・来賓・職員が参列し、盛大に行われた創立88周年記念式典
平成10年11月17日 那覇高校体育館にて

母校は明治43年（1910年）県民の向学の気運に応じて、沖縄県立中学校の分校として首里城内で誕生した。戦後昭和23年那覇高等学校として創立し、県立第二中学校の伝統を引き継いで以来97年を迎えた。

今回これまでの周年事業を検索してみたい。

創立期、首里城北殿時代

当時分校生といえば同じ中学生でありながら何だか継子扱いにされ、肩身が狭いような気がしないでもなかった。校舎は腐朽した建物、したがって校舎としての諸設備の点にいたるまで至って不完全であったことは申すまでもない。しかしながら分校へ入学したわれわれの意気は、なかなか当たるべからざるものがあつた。われわれは創業の旗幟の下に刻苦勉強したものである。

首里城の中に中山第一の霊泉龍樋の水に育まれ、朝夕仰ぐ首里城正殿カラファーフに高遠の理想を描きつつ学ぶわれわれは、幸福であつた。

（二中1期・小那覇全孝氏手記より）



首里時代—北殿を使用した

二中創立25周年（昭和8～10年）

当時の沖縄の人口は約60万人で、そのうちの7割が農民であった。早魃が続き、久米島、宮古、八重山を中心に深刻な食糧不足に陥った。ブラジル移民2,300人、多くの人々が本土への出稼ぎ、漁業従事者3,270人が東南アジアで活動した。

主な記念事業として

- ①二中記念館の建設
- ②志喜屋孝信校長の胸像の建立
- ③同窓会会員名簿の作成
- ④創立25周年記念誌『緑』の発行



二中創立25周年記念事業によって修復された校舎全景
(運動場より、昭和10年頃)

二中創立30周年（紀元2600年奉祝記念事業） (昭和13～15年)

多額の借金をかかえてどうにもならない農家では、最後の手段として身売りが公然としておこなわれた。男性は糸満の漁師の親方に身売りして漁業に従事し、女性は女郎として遊郭に売られた。昭和13年に人身売買が厳禁となった。

主な記念事業として

- ①記念会館階下の62坪を図書館に改築
- ②創立30周年記念誌『緑』の発行
- ③国旗掲揚台を新玄関脇に建設
- ④理科賞の設定
- ⑤事変戦没者の慰霊祭



事変戦没者の慰霊祭（二中創立30周年）

二中・那覇高校創立45周年（昭和29～31年）

沖縄の人口は801,065人。八重山計画移民、ボリビア移民団、アルゼンチン・ブラジル移民団出発する。琉球政府の機構は、立法（立法院）、行政（行政主席）、司法（裁判所）の三権分立による琉球における全権機関であったが、その上には琉球列島米民政府が敢然と立ちはだかつていた。

主な記念事業として

同窓会館の建設

旧二中の志喜屋記念館を修復・保存するため、それを内側に包み込む形の下駄履き構造の二階建（一部四階建）にし、一階は図書館と管理関係付帯施設、二階は中二階構造で本格的な劇場設計（講堂）にした。また、ステージ奥側には二中職員・生徒戦没者の祭壇を設けて「位牌と御霊体」を安置した。



二中・那覇高校創立45周年記念事業として建設した
城岳同窓会館（昭和31年）

那覇高校創立10周年（昭和32～33年）

運動場に大スタンドを建設、鉄骨造の本格的なバックネット、本部室、ダグアウト、スコアボード等の付帯設備の設置。尚本校の運動場に野球場施設が完備したため、県立野球場ができるまでの間、本県の公式野球場及び公式競技場として使用される。



那覇高校創立15周年記念事業で整備した野球場と
大スタンド（昭和33年）

生産と消費の両輪が、好調に回転して県民を引っばる高度経済成長時代に入った。皇太子のご結婚はまさに、好況に華やぐ国民ムードにもぴったりのイベントであった。「ミッチーブーム」を巻き起こし、この結婚式のパレードを見るためテレビの需要が飛躍的に伸び各家庭に普及した。

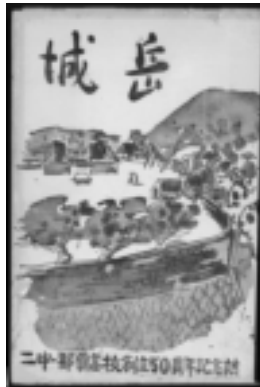
沖縄では通貨B円からドルに切り替えられた。

二中・那覇高校創立50周年（昭和33～34年）

石川市宮森小学校に米軍機が墜落し、死者17人、負傷者121人。台風14号宮古島を襲い、多大な被害をもたらす。金武村で米海兵隊が農家の主婦をイノシシと間違えて射殺する。

主な記念事業

- ①城岳会員名簿の発行
- ②記念誌「城岳」の発行



二中・那覇高校創立50周年記念誌「城岳」

那覇高校創立15周年（昭和35～36年）

1960年4月28日沖縄県祖国復帰協議会が組織された。復帰協は沖縄が日本から分離された1952年4月28日を「屈辱の日」ととらえ、それ以降、この日を中心に復帰運動をおこなうようになった。

主な記念事業としては

便所・医務室・スタンドの増築・テニスコートの建設・チャイムベルの設置等を行う。

二中・那覇高校創立55周年（昭和39～48年）

佐藤首相1965年に来沖し、「沖縄が復帰しない限り、日本の戦後は終わらない」というコメントを発表する。1966年沖縄の人口は934,166人。1968年初の公選主席に屋良朝苗氏当選、嘉手納基地でB52墜落炎上する。

1972年5月15日、27年間に及ぶ米国の統治

に終止符がうたれ、沖縄は日本に返還された。

主な事業として

- ①体育館用地の購入
- ②総合体育館の建設
- ③シンボル像の建立
- ④同窓会員名簿の発行
- ⑤記念誌「城岳」の発行



二中・那覇高校創立55周年記念事業で10年の歳月をかけて建築した県内最大の体育館（昭和48年）

二中・那覇高校創立70周年（昭和55～57年）

昭和56年国頭村与那覇岳で発見された新種の鳥に「ヤンバルクイナ」と命名する。

主な記念事業

- ①同窓会員名簿の発行

二中・那覇高校創立80周年（平成元年～3年）

ゴルバチョフ大統領追放のクーデターに端を発した政変が遂に「ソ連邦」消滅に発展、69年の歴史に幕を閉じた。

主な記念事業として

- ①校門横に80周年記念碑として二中と那覇高校の校章を彫り込んだモニュメントと二中と那覇高校の、校歌碑を建立する。
- ②健児の塔を城岳公園内に移設する。
- ③記念誌の発行
- ④同窓会員名簿の発行
- ⑤学校用マイクロバスの購入



創立80周年記念事業で奥武山から城岳に移設建立した二中健児の塔（平成2年）

二中・那覇高校創立88周年（平成7～11年）

平成7年1月17日午前5時46分マグニチュード7.2の直下型地震が兵庫県南部を襲い死者6,308人、被害額9兆64億円にのぼる戦後最大の惨事となった。バブル経済の崩壊、そしてリストラによる失業者の続出、先行き生活不安から県民は消費を手控え、景気回復は遅々として進まなかった。

主な記念事業として

- ①城岳同窓会館の建設
- ②記念誌「写真が語る二中・那覇高校の歴史」(写真集)の発行
- ③人材育成基金の造成
- ④創立記念「城岳祭」の開催



城岳同窓会館

平成19年度城岳同窓会総会・懇親会報告

平成19年度定期総会・懇親会は5月19日(土)午後5時よりパシフィックホテルで開催された。平成18年度事業報告、決算報告、19年度事業計画(案)、予算(案)の審議が行われ総会で承認された。

懇親会は、「心一つに一世紀、二中・那覇高 我らが母校」のテーマをもとに30期生の皆様が幹事となって運営され、600人を越える参加を得た。同窓会員による劇団カジマヤー人形劇、ピアノ演奏、独唱などを楽しみながら仲井眞沖縄県知事をはじめ多くの同窓会員が懇親を深めた。また、多くの参加のおかげで奨学金造成という目的・目標もほぼ達成できた。



人形劇団かじまやあ
代表 桑江淳子（那覇高23期）



翁長武範校長を囲んで記念撮影
懇親会運営実行委員（那覇高30期）

平成19年度の主な事業計画

今年度の主な事業は、下記のとおりである。

平成19年

- ☆ 4月19日(木) 理事会・評議員会 午後7時
・総会及び懇親会事項について
- ☆ 5月19日(土) 平成19年度総会並びに懇親会
場所・時間 パシフィックホテル沖縄 サンゴの間 午後5時
- ☆ 6月17日(日) 城岳同窓会主催二中前通り大クリーン大作戦
- ☆ 6月23日(土) 二中健児の塔慰霊祭
- ☆ 8月30日(木) 第2回理事会
- ☆ 9月1日(土) 会報13号の発行
- ☆ 10月 創立記念文化講演会「先輩から後輩へのメッセージ第5回城岳講座」
- ☆ 11月 第8回那覇高等学校・首里高等学校親善スポーツ大会
- ☆ 11月29日(木) 城岳同窓会ゴルフコンペ(琉球ゴルフクラブ)
- ☆ 11月 第3回理事会
- ☆ 12月15日(土) 新春歌会募集 ホームページで発表

平成20年

- ☆ 3月1日(土) 第61期生同窓会入会式

600名余の参加でクリーン大作戦

今年度の「城岳同窓会クリーン大作戦」が、6月17日(日)9時30分から11時まで実施された。城岳同窓会・那覇高校・那覇高校PTA・開南通り会・楚辺1丁目自治会の総勢600余名の皆さんの参加で実施された。

この活動は、毎年慰霊の日に行われる「二

中健児の塔慰霊祭」の直前の日曜日に実施される清掃活動です。那覇高校生を中心に同窓生や地域の皆さん、保護者が精力的にわが母校周辺の美化活動を行い、新たな気持ちで「二中健児の塔慰霊祭」を迎えた。



「クリーン大作戦」 600余名が参加



二中健児の塔慰霊祭で焼香をする参列者の方々

二中健児の塔慰霊祭しめやかに行われる

6月23日は「慰霊祭の日」、県内各地で慰霊祭が開催されている。今年も「二中健児の塔慰霊祭」が城岳同窓会、那覇高校、二中健児の遺族会の共催で行われた。二中健児の塔には沖縄戦で亡くなられた職員9名、学徒185名（5年生21名、4年生30名、3年生53名、2年生75名、1年生6名）が祀られている。

那覇高校七期生「トゥシビー合同祝賀会」を実施

2007年7月7日に、私たち七期生は73歳「トゥシビー合同祝賀会」を実施した。



合同祝賀会を実施するに当たっては、2年前に実行委員会を立ち上げ綿密な計画のもとに取り組んだ。当日は第1部「総会」、第2部「食事懇談タイム」、第3部「ショータイム」（古典音楽、フォークダンス、フラダンス、カラオケ、詩吟、朗読、ジャズの世界など盛り

たくさんの内容）で楽しく充実した祝賀会であった。

現在、実行委員会を中心に「トゥシビー合同祝賀会スナップ写真集」を編集中である。高校卒業五十周年に発刊した記念誌「朋友」とともに良き思い出のヒトコマとして活用したいと考えている。



10期生卒業50周年事業

我々10期生（昭和32年卒）は今年卒後50周年を迎えました。そこで、佐久本暁会長のもと、記念パーティー（平成19年10月20日パシフィックホテル）と記念誌の発行を企画しています。パーティーには仲井真知事（同期生）を始め恩師もお招きして盛大に催すよう企画しています。記念誌は『誌』とCDを組み合わせたものを考えています。

誌には随想、アンヤタン、カンヤタン（あんなことがあった、こんな人物になった）、当時のタウンマップ、ワッタヤー サチナインドー。イッターヤ ヨーンナー クーヨー（墓碑銘）、年譜等貴重な歴史的な記録や楽しく頁を開けるような工夫をしています。

CDには写真や校歌（音）を収録します。完成の暁にはしかるべき施設にも寄贈しますので機会があれば手に取ってご覧下さい。発刊予定日は平成20年3月です。

（文責 宮城英雅）



会 員 寄 稿

『城岳新春歌会』

☆天賞 永吉 京子（十二期）

貴人（あてびと）のごとき風姿に富士山の雪被きたるをみする孟春

《評》「富士二鷹三茄子」は縁起の良い夢を順に並べた言葉だが、富士山は何時、どこから眺めても美しい。この作は機上から見たものらしいが、下句は「雪被きたり初春の空に」と四句切れにしても「空」を挿入すると、解りやすくなると思われる。

☆地賞 當間 實光（十五期）

胡坐かき朝のベンチに煙草吸う少女の白き横顔のさみし

《評》今時の若者の姿の一つの側面を捉えた作品。行儀の悪い上句の具体と下句の少女の横顔の寂しげな様子を照応させた手法がよい。

☆人賞 米盛 末子（七期）

ゆく年の禍事祓ひに新年のうからの息災畏みをがむ

《評》新年にあたり、旧年中の禍を祓い、初春の無病息災を願うという年の始めにふさわしい歌。但し、一首として常套的になった事が惜しま

れる。

☆秀逸 新城 裕子（十期）

黒与那の小粒の花は紫の雨降らすがに我が肩を打つ

《評》黒与那という街路樹の紫色をした小粒の花が散りゆくさまを「まるで雨を降らすかのよう」に我が肩を打つ」と詠んだ下句が光る。その小粒の花の質感・量感も結句に描写。

☆秀逸 當間 ハツエ（十五期）

骨太に生きぬぎし母の九十余年野辺にゆれ咲く石露の花

《評》挽歌は新年には似つかわしくないかも知れないが、天寿を全うした母と、石露の花の美しい黄金色との組み合わせが良い。また、「骨太に生きぬく」というフレーズも生きることの大切さを考えさせて巧み。

☆佳作 藤田 和巳（二五期）

這え歩め育て学べと春数え期待の陰で長命の母

選者 比嘉 美智子

（沖縄タイムス歌壇選者）

1、進路状況

(平成19年 3 月卒業生総数516名)

ここ数年実績を伸ばしつつある要因として、7時30分からの早朝必修講座や各種講座等の取り組みの成果が考えられます。

(1)〔大学合格状況〕

国公立大学 69名 (県内 56名)

私立大学 196名 (県内121名)

短期大学 26名 (県内 16名)

専門学校 99名 (県内 76名)

文部科学省管轄外大学校

13名 (県内 13名)

○現役合格率78.1%

(2)〔就職状況〕

県内 10名 県外 3 名

○就職率100%

2、部活動の活躍状況

(1)平成19年度 全九州全国高等学校総合体育大会出場
＜九州大会＞

水泳 (女子、男子)、テニス (女子)、
剣道 (男子団体、女子個人)、自転車
(女子、男子)、フェシング (女子)、
ボクシング (男子)、弓道 (男子)

＜全国大会＞

剣道 (男子団体、女子個人)

ウェイトリフティング (男子、女子)・
東門勇将 (全国 1 位)

(2)第54回NHK杯全国高校放送コンテスト
出場 (放送部)

全国高等学校総合文化祭島根大会
(放送部・優秀賞、弦楽同好会)

ライオンズスペシャル第27回全国高等学校
クイズ選手権出場 (県内 1 位)

第47回沖縄県吹奏楽コンクール (金賞・
29年連続)

3、行事

4 月 新入生歓迎球技大会

5 月 遠足、県総合体育大会、英語スキ
ットコンテスト

6 月 校内弁論大会

7 月 インターシップ、夏期講座 (前期)、
ワックスかけ (1・2・3 年)

8 月 夏期講座 (後期)

9 月 城岳祭

10月 芸術鑑賞、県高校新人体育大会
城岳講座 (先輩による各クラスでの
講話)

11月 校内英語カラオケコンテスト

12月 芸術 4 科合同発表会

1 月 大学入試センター試験

予餞会 (3 年生を送る会)

2 月 ネーサンヘイル交換留学

3 月 卒業生による講話 (1・2 年)

4、城岳同窓会館・自習室の活用

現在、3 年生が、城岳同窓会館 4 階の自習室
を活用して勉学に励んでいます。この自習室
から大学合格者等が出て実績をあげています。

講師 4 名が指導に当たっています。平日
は授業終了後～午後 9 時、土日は午前 9 時
～午後 9 時利用できます。現在110名が登
録し、進路実現に向かっています。



勉学に励む生徒達

城岳同窓会ホームページ

<http://www.jogaku.or.jp>

城岳同窓会会報

編集発行 城岳同窓会 〒900-0014 沖縄県那覇市松尾 1-21-53 電話・FAX 098-867-2525